

プレスリリース

(Global Reporting Initiative)GRI と国際開発センター(IDCJ)
による共同発表



即日発表用

日本市場のサステナビリティの可能性を引き出す GRI(グローバル・レポーティング・イニシアティブ)と国際開発センター(IDCJ)がパ ートナーシップを開始

アムステルダム/東京、2023年1月23日 – GRI スタンダードは、サステナビリティ報告のインパクトに関する、世界で最も広く利用されているスタンダードです。このサステナビリティ・アドバイザー・パートナーシップを通じ、本スタンダードに基づいた日本語のサービスを新たに提供していきます。日本企業のサステナビリティ報告の質を高めるための支援を目指します。

GRI と国際開発センター(IDCJ)は、IDCJ が日本企業のサステナビリティ報告における GRI 内容索引サービスを提供することに合意しました。企業は、IDCJ に報告書を提出することにより、IDCJ が評価を行い、内容索引の改善や調整方法についてフィードバックを行います。

日本では、すでに多くの組織が GRI スタンダードを利用したサステナビリティ報告を行っています。[KPMG の調査](#) (2022年10月)では、日本の売上高上位100社のうち87%が GRI スタンダードを利用し、その75%が報告書に外部保証を利用していることが明らかになっています。GRI スタンダードの全文は[日本語で閲覧](#)できます。

GRI 内容索引は、ステークホルダーや報告利用者が関連情報に容易にアクセスできるようにするため、GRI スタンダードを利用したサステナビリティ報告の重要な要求事項として位置づけられています。現在、グローバルレベルで、GRI は英語による [Content Index Service \(内容索引サービス\)](#) を提供していますが、英語以外の他言語による提供は今回が初めてとなります。

GRI のサービス責任者であるジョン・ナイトは、次のように述べています。

「GRI では、サステナビリティ報告者の実務を改善し、報告書の品質と有用性を高めるための支援方法を常に模索しています。毎年、私たちは世界中の500社以上の企業に内容索引に関するフィードバックを提供しています。今回の IDCJ との新たなパートナーシップにより、日本語で報告書を発行している企業に対して、そのニーズに合わせたサポートを提供できるようになることを大変嬉しく思います。」

IDCJ SDGs 室の三井久明はこう述べています。

「GRI が日本におけるサステナビリティアドバイザーパートナーとして IDCJ と協働することを光栄に思います。2022年10月に改訂版 GRI スタンダード日本語訳が公開され、2023年1月から改訂版 GRI スタンダードの利用が必須となりました。GRI レポーティング(内容索引)サービスを通じ、改訂版 GRI スタンダードによる日本語による GRI 内容索引作成支援を行っていきます。多くの日本企業の皆様にご利用いただければと思います。」

編集者注記

GRIとIDCJは、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)会員企業向けに、GCNJレポート研究分科会の活動として、2023年2月8日16時(日本時間)より行われるWebセミナーに登壇いたします。本ウェビナーでは、改訂されたGRI共通標準の紹介や、日本市場向けの新しいレポート・サービス・パートナーシップに関する情報共有が行われる予定です。GCNJ会員企業でGRI標準をご利用の企業の皆様は、ぜひご参加ください。

[Global Reporting Initiative](#)(GRI)は、企業やその他の組織が対外的に齎すインパクトに対して責任を持ち、そのインパクトを報告するために世界的な共通言語を提供する独立した国際組織です。[GRI標準](#)は、マルチステークホルダー・プロセスを通じて開発され、無料の公共財として提供されています。

[国際開発センター](#)(IDCJ)は、1971年に経団連をはじめとする日本財界の支援により設立されたシンクタンクです。2018年、IDCJはGRI認定トレーニングパートナーに認定され、GRI標準等のトレーニングコースを定期的を開催しています。これまでに124の企業・団体から218名の方が認定研修を受講しています。

メディア・コンタクト

GRI シニア・メディア・リレーションズ・マネージャー [Tom Whittles](#)

IDCJ SDGs 室長 [三井久明](#)